展示リスト

稲畑 汀子（いなはたていこ）

1931 ～　（昭和 6 年－　）

神奈川県出身。
俳人。
父は高浜年尾、祖父は高浜虚子。
「ホトトギス」主宰を継承、日本伝統俳句協会会長。

上司 海雲（かみつかさかいうん）

1906 ～ 1975（明治 39 年－昭和 50 年）

奈良県出身、
華厳宗僧侶、２０６世東大寺別当（住職）。
文学、芸術を愛し、奈良に文化人サロンを形成、
「観音院さん」の名で親しまれた。
志賀直哉、杉本健吉、会津八一、入江泰吉、須田剋太
などと深く交流した。

川合 玉堂（かわいぎょくどう）

1873 ～ 1957（明治 6 年－昭和 32 年）

愛知県出身、本名は川合芳三郎。
12 歳頃より絵に親しみ 17 歳で博覧会入選。
橋本雅邦に師事、日本美術院に参画。
当時の日本画の代表的作家。
東京美術学校教授、文化勲章受章。

幸田 露伴（こうだろはん）

1867 年～ 1947（慶応 3 年－昭和 22 年)

東京都出身、本名は成行（しげゆき）。
作家。
帝国芸術院会員、第一回文化勲章受章。
代表作に、「風流仏」、「五重塔」、「運命」等
古典研究にも足跡を残す。

水原 秋桜子（すいばらしゅうおうし）

1892 ～ 1981（明治 25－昭和 56 年)

東京都出身、本名は水原豊（みずはらゆたか）。
俳人、医師。
昭和大学初代産婦人科教授をし、宮内省侍従医として多くの
皇族の出産を担当した。東京大学医学部の学生時代に句作を
開始、高浜虚子に師事し、「ホトトギス」に参加。
後に「馬酔木」を主宰。

須田 剋太（すだこくた）

1906 年～ 1990（明治 39 年－平成 2 年)

埼玉県出身、本名は須田勝三郎。
洋画家
具象画、抽象画で名声を得た。
力強い奔放なタッチが特徴。
司馬遼太郎の「街道をゆく」の挿絵も描いた。

高浜 虚子（たかはまきょし）

1874 ～ 1859（明治 7 年－昭和 34 年）

愛媛県出身、本名は高浜清（たかはまきよし）。
俳人、作家。
松山の旧制中学時代に、河東碧梧桐と同級になり、正岡子規
に師事。子規より虚子の号を受ける。
京大入学、東北大転入し、中退。虚子の家で「ホトトギス」派
として活動。代表作に「虚子句集」。

高村 光太郎（たかむらこうたろう）

1883 年～ 1956（明治 16 年－昭和 31 年)

東京都出身､本名は「みつたろう」と読む。
当時の日本を代表する彫刻家、画家、書家。
詩人として代表作「道程」、「智恵子抄」が有名。

立花大亀（たちばなだいき）　－　紫大亀老師

1899 ～ 2005（明治 32 年－平成 17 年）

大阪府出身。
臨済 (りんざい) 宗の僧、大正 10 年出家。
京都大徳寺塔頭 (たっちゅう) の徳禅寺住職となる。
大徳寺派宗務総長を 2 期つとめ , 昭和 38 年最高顧問 ,
48 年大徳寺内に如意庵を復興して庵主となる。
57-61 年花園大学長。著作に「度胸の据え方」「利休に帰れ」など。

田山 方南（たやまほうなん）

1903 ～ 1980（明治 36 年－昭和 55 年）

三重県出身、本名は信郎（のぶお）。
東京大学卒業後、文部省の役人として、国宝審査官、
文化財調査官などを歴任。
墨跡研究者として知られ、書籍、典籍、古文書の調査、
保存に尽力貢献。

益田 孝（ますだたかし）

1848 ～ 1938（嘉永元年－昭和 13 年)

新潟県佐渡生まれ。号は鈍翁（どんのう）。
実業家。
父は武士で、函館奉行、佐渡奉行を歴任、後に江戸に帰る。
三井財閥を支えた実業家で、草創期の日本経済の大重鎮。
三井物産設立、日本経済新聞の前身である中外物価新報を創刊。
茶人として高名で、「利休以来の大茶人」と称された。

宮川 寅雄（みやかわとらお）

1908 ～ 1984（明治 41 年－昭和 59 年)

東京都出身。
美術史家。
早稲田大学（後に中退）で会津八一に師事して、
東洋美術史を研究。
日中文化交流協会で活動し、後に理事長になる。
和光大学教授。

山口 誓子（やまぐちせいし）

1901 ～ 1994（明治 34 年－平成 6 年）

京都府出身、本名は新比古（ちかひこ）。
俳人。
京都第三高校時代から「ホトトギス」に投稿、本格的句作開始。
東大入学後は「東大俳句会」に参加し、水原秋桜子と親交を深
めた。住友合資会社に勤務しながら句作活動を続け、新興俳句
運動の中心的存在であった。